

## 東京都立大学 学術集会等開催支援 成果報告書

報告者 (申請者)	所属	人文社会学部 歴史学・考古学教室	職名	准教授
	氏名	大貫 俊夫	TEL (内線)	1276 (内線)
			e-mail	<a href="mailto:ohnuki@tmu.ac.jp">ohnuki@tmu.ac.jp</a> (メールを送信される場合は●を @に変換してください)
学術集会名	有形=無形を超越する—前近代東西ユーラシアの宗教とメディア Transcending the Tangibility and Intangibility: Religion and Media in Pre-Modern East and West Eurasia			
開催会場	東京都立大学南大沢キャンパス 国際交流会館大会議室			
開催日時	2023年11月25日(土)、26日(日)			
開催概要・成果等				
<p>1. プログラム・内容</p> <p>申請者が領域代表を務める学術変革領域研究 (B)「中近世における宗教運動とメディア・世界認識・社会統合：歴史研究の総合的アプローチ」(2020～2023 年度)の研究成果により、中近世の宗教メディアが有形性 (tangibility) と無形性 (intangibility) という二つの性質をあわせ持ち、これらが近代以降とは異なる形で混在しながら当時の宗教観、世界認識、地域秩序の成立等に強い影響を与えていたことがわかってきた。その入れを受けて、本学術集会ではメディアの有形性と無形性をメインテーマとして、前近代のキリスト教修道制と日本の仏教・神道を比較することで、各文化圏で創出された宗教メディアの特質を明らかにし、互いの共通点・相違点を導き、宗教文化の持つ文明史的意義に新たな光をあてた。</p> <p>本学術集会では、「創建神話に見るメディアとしての宗教施設」、「宗派アイデンティティとメディア」、「宗教ネットワークの構築とメディア I、II」の各セッションで計 12 報告が、「用語を超越して概念を掴む」のセッションで 1 報告とラウンドテーブルが行われた。</p> <p>2. 参加者 (参加者数、参加者所属・職位等)</p> <p>対面で実施し両日とも 30 名の参加者があり、国内外の大学教員、助教・ポスドク、大学院生、学部生が参加した。</p> <p>(内訳：海外教授 2、教授 10、准教授 7、助教・ポスドク 6、大学院生 3、学部生 2)</p> <p>3. 成果</p> <p>本学術集会を開催したことにより、中世前半を専門とする Steven Vanderputten (ベルギー、ヘント大学教授) と中世後半を専門とする Emilia Jamrozak (イギリス、リーズ大学教授) を招聘し、日本側のキリスト教修道制、日本中世仏教・神道の研究者とともにセッションを組み立てることで、ユーラシア東端・西端に関する比較宗教メディア史研究の端緒を開くことができた。2 日間にわたり密度の高い議論が交わされ、その成果から、招聘し国内外の研究者とともに今後の共同研究の方向性を見出すことができた。本学術集会の報告原稿は今後英語論文集として取りまとめ、これを海外の出版社から刊行する予定である。</p>				